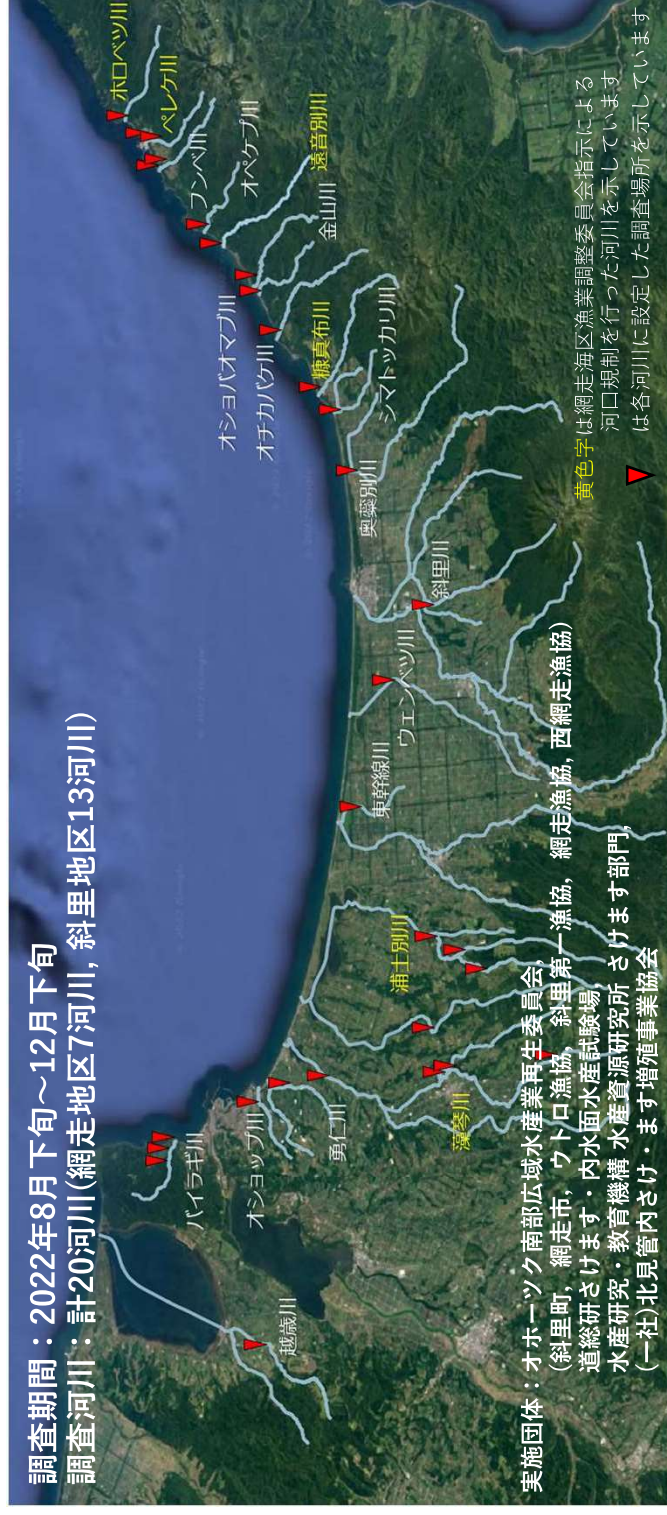


オホーツク東部地区のさけます資源回復対策の取組状況について

【取組の概要】

- オホーツク東部地区は北海道の中でもさけますの漁獲量が多い地域ですが、他の地域同様にさけますの来遊数が近年減少しています。
- 減少しているさけますの来遊数を回復させる手段として、野生魚※の保全や野生魚をふ化増殖事業へ活かすことが重要だと考えられています。
- そこで、さけます野生魚の遺伝的な特性・遡上実態を調べるための調査や河川への遡上や産卵を促進させる取組を実施しています。
- さけます親魚の自然な遡上に影響をあたえずに調査を遂行できるように、一部の河川においては河口付近のさけ・ます採捕の規制を行っています。

野生魚※：野外における自然産卵によって生まれたサケのことです



🐟 さけます野生魚に関する調査・研究



さけます遡上調査



サケの遺伝サンプル・カラフトマスの耳石回収



遡上したサケの群れ

- 🐟 各河川に設定した調査区間を10日あるいは月に1回の頻度で踏査し、目視によるさけますの遡上数、死骸数および産卵床数を数えました。
- 🐟 サケの遺伝的特性やカラフトマス野生魚の分布を調べるために、産卵を終えた個体から遺伝サンプル(ヒレ)や耳石の回収を行い、分析を進めています。
- 🐟 カラフトマスは全道的な不漁の影響により、例年よりも遡上数が少ない河川がほとんどでした。一方、サケの姿は河口規制を実施した河川を中心に数多く確認でき、多いところでは数千尾ものサケが遡上したと考えられました。

🐟 さげます親魚の河川遡上の促進

さげますが遡上できない落差区への
可搬式魚道の設置(斜里地区の取り組み)



さげますが遡上できない落差工への
簡易魚道の設置(網走地区の取り組み)



捕獲されたサケ親魚の上流への再放流



- 斜里・網走地区では、漁協・自治体・漁業者の取り組みにより、さげますが遡上できない河川工作物へ魚道設置が行われており、昨年度も例年通りに実施されました。このような取り組みはさげますの遡上域の拡大や産卵床数の増加に貢献していることが確認できています。

- 河川で捕獲されている1,000尾以上のサケ親魚を捕獲場所よりも上流域へ再放流し、自然産卵を促す試みを試験的に行いました。放流時に標識をつけたサケ親魚が産卵を終えたホッチャレとして、無事に上流域で確認されています。